



うしくり通信

ワクチンの正しい知識と インフルエンザの予防



ワクチンとは 感染症の予防接種に使う薬品をワクチンといいます。ワクチンには、一種だけのものと、数種を混合したものがあります。一生免疫を持続するワクチンはありません。完全な予防には必ず一定の間隔で複数回接種が必要です。

ワクチンの種類 毒力を弱めた生きたウィルスや細菌を使う「生ワクチン」と、ウィルスや細菌の一部成分のみを使う「不活化ワクチン」があります。生ワクチンは強い免疫力が得られ、持続期間も長い反面、副反応の出る確率が不活化ワクチンより若干高く、不活化ワクチンは副反応が少ないものの持続時間が短いことが特徴です。

100%安全なものとは限らない 100万回の接種に1回程度は、強い副反応の起こる可能性があります。ワクチンを接種せずにその病気にかかると、数百人から千人に一人が障害を残すか、生命をおびやかされることなどの恐れもあります。

予防接種を受けましょう 例えば、はしかは生命にかかわることがあります。風疹は妊婦がかかると赤ちゃんに影響し、ポリオは神経麻痺をおこすことがあります。百日咳は乳児で脳障害を起こしたり、おたふくかぜは難聴になることがあります。インフルエンザ菌b型(ヒブ)や肺炎球菌は髄膜炎を起こします。

特に免疫力の低いお子さんや高齢者は、かかってしまう前に予防接種で妨げる病気にかからない、またはかかっても軽症になるようにしましょう。

今年のインフルエンザ 昨年流行した新型インフルエンザはワクチンの供給が間に合わず騒動

になりましたが、今季は新型と季節性とワクチンが一本化されたので1種類で済みます。

新型は昨季と同じ株が流行すると予測されていますが、今季の季節性のワクチンはA香港型とB型も混ざっており、A香港型とB型は遺伝子変異していて、これまでのワクチンでは効果が期待できません。今年のワクチンは昨季のように足らなくなることがないよう十分供給されますので、新型に限らずインフルエンザ全般にかかりたくない人には接種をお勧めします。

お子さんによってはポリオやヒブワクチンなどの任意の予防接種の予定と、インフルエンザとどちらを優先すればよいか悩まれるかもしれませんが、病気そのものの流行や地域での流行状況を総合的に判断しなければなりませんので、かかりつけの医療機関にご相談ください。

新型インフルエンザ予防のポイント



院長コラム
流行から久
しく影を潜
めている新
型インフル
エンザです
が、九月末
の全国定点
調査では、
一医療機関
あたり、○○
まで完全に
○○ではあり
ません。一
医療機関あ
たり○○を超
えるとシ
ズンと判断
され、警報
といわれる
レベルは○○
を超えた時
とされています。
ます。
エンザフル
チンの予約
受付が始ま
り、から十月
までの間に
ご希望の方
はお申し込み
ください。